

茨城県の景気判断について

2月7日に公表した茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢の総括判断（全体としての判断）を、「新型コロナウイルス感染症の影響から、サービス消費を中心に引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している」と据え置きました。

今回は、個人消費の判断を下方修正しました。以下、主な項目ごとにご説明します。

個人消費は、持ち直しつつありますが、足もとでは、感染症の急速な再拡大の影響がみられ始めています。

- 百貨店・スーパー販売額（12月）は、2か月振りに前年を上回りました。全体の流れとしては底堅く推移しています。衣料品の販売は持ち直しつつあります。食料品のほか、身の回り品や雑貨の一部が堅調です。もっとも、ヒアリングでは、1月中旬以降、感染症の急速な再拡大の影響が聞かれ始めています。
- 乗用車新車登録台数（1月）は、普通・小型車が5か月連続で、軽自動車も8か月連続で、それぞれ前年を下回ったことから、全体でも7か月連続で前年を下回りました。
- 家電販売は、巣ごもり需要やテレワーク関連需要に一服感がうかがわれていることなどから、弱含んでいます。
- 宿泊・飲食サービスや対個人サービス（旅行等）等の売上高などは、行政による緊急事態宣言等の解除等に伴って持ち直しつつありましたが、足もとでは、感染症の急速な再拡大の影響がみられ始めています。

住宅投資では、新設住宅着工戸数（12月）は、持家、貸家系、分譲のいずれも前年を下回り、全体でも10か月振りに前年を下回りました。基調としては、持ち直しています。

公共投資では、公共工事請負金額（12月）は、2か月振りに前年を下回りました。全体の流れとしては、減速しています。

設備投資では、短観（12月調査）をみると、2021年度の設備投資は、前年度の大型投資の反動などから、全体では前年度を下回る計画となっています。足もとでは、需要増を受けて生産能力増強投資を行う先や、事業を多角化するための投資を行う先などがみられている一方で、供給制約等に伴う減産を受け投資を抑制する先もみられています。

輸出は、海外経済が、国・地域ごとにばらつきを伴いつつ、総じてみれば回復している中、一部に供給制約の影響を受けつつも、基調としては増加を続けています。

これらの最終需要を反映した企業の生産活動をみると、鉱工業生産指数（11月・原指数）は、10か月連続で前年を上回りました。足もとでは一部に供給制約の影響を受けつつも、基調としては海外経済の回復などを背景に増加を続けています。

雇用・所得環境についてみると、一人平均現金給与総額と常用労働者数（11月）は前年を上回った一方、一人平均所定外労働時間（同）は前年を下回りました。また、有効求人倍率（12月）は1.31倍と5か月連続で前月を下回りました。足もとでは、製造業で生産の基調的な増加を受け労働需給が引き締まる動きがみられるものの、感染症の影響により、全体として弱い動きがみられています。

上記のように、県内景気は、感染症の影響から、サービス消費を中心に引き続き厳しい状態にありますが、基調としては持ち直しています。個人消費は、持ち直しつつありますが、足もとでは、感染症の急速な再拡大の影響がみられ始めています。設備投資は前年度の大型案件の反動などから前年度を下回る計画となり、公共投資も減速しています。もっとも、住宅投資は基調としては持ち直しているほか、輸出や生産が、一部に供給制約の影響を受けつつも、基調としては増加を続けています。

今後は、以下の点を中心に、注視していきたいと思えます。

- 足もとの感染症の急速な再拡大が、個人消費に及ぼす影響
- 供給制約の影響を含めた輸出・生産の増加の持続性
- 原材料・燃料コスト等の上昇の影響

2022年2月7日
日本銀行水戸事務所長
上野 淳